

吾妻山の火山活動解説資料

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞
吾妻山では、火山性地震が増加しています。今後の火山活動の推移に留意してください。
大穴火口や燕沢火口列周辺では、火山ガスの噴出が認められており熱活動も継続していることから、火山灰や高温の土砂、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。また、硫黄平橋周辺でも火山ガスに注意が必要です。地元自治体の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1～3、図5-②～⑥）

大穴火口付近の直下では、2023年2月頃から火山性地震が多い状態で経過していましたが、3月10日以降更に増加し、10日31回、11日73回、12日107回、13日40回（10時現在、いずれも速報値）となっています。また、低周波地震の発生頻度が2月頃からやや上がっています。火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図4、図5-①）

浄土平観測点（大穴火口から東南東約1km）に設置している傾斜計では、2022年11月頃からわずかな西（大穴火口方向）上がりの変化が継続しており、3月8日頃から西上がりの変化がやや大きくなっています。

・噴気など表面現象の状況

監視カメラによる観測では、本日（13日）は視界不良のため詳細は確認できていません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

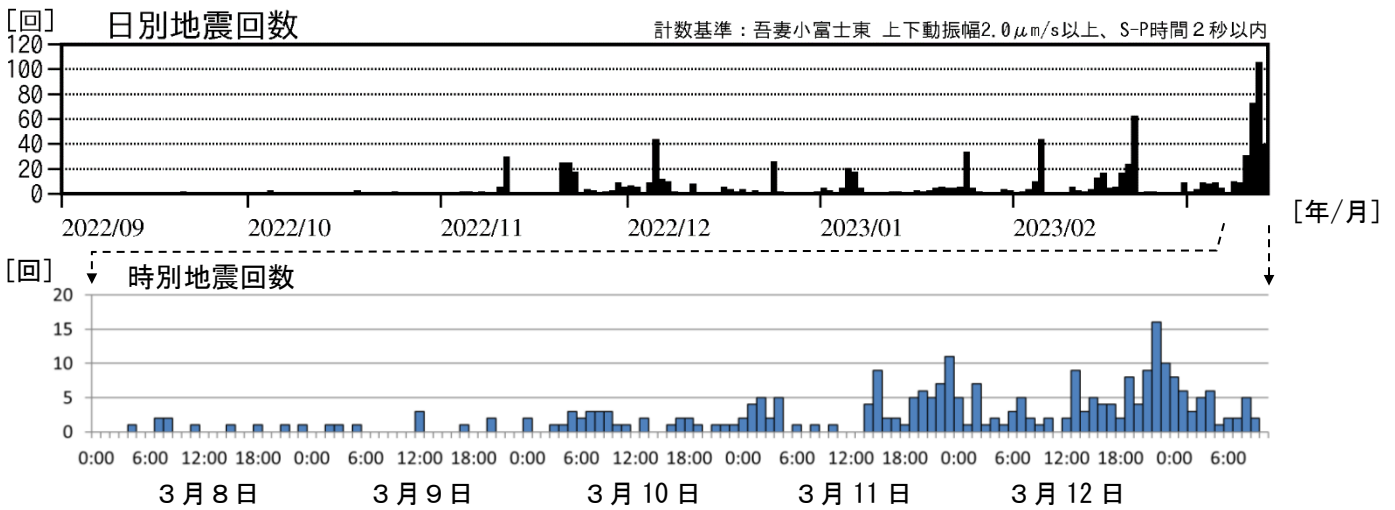


図1 吾妻山 日別地震回数（2022年9月～2023年3月13日10時）

・速報値を含みます。

火山性地震は2022年11月頃からやや多く、2023年2月以降は多い状態で経過していましたが、3月10日以降更に増加しています。

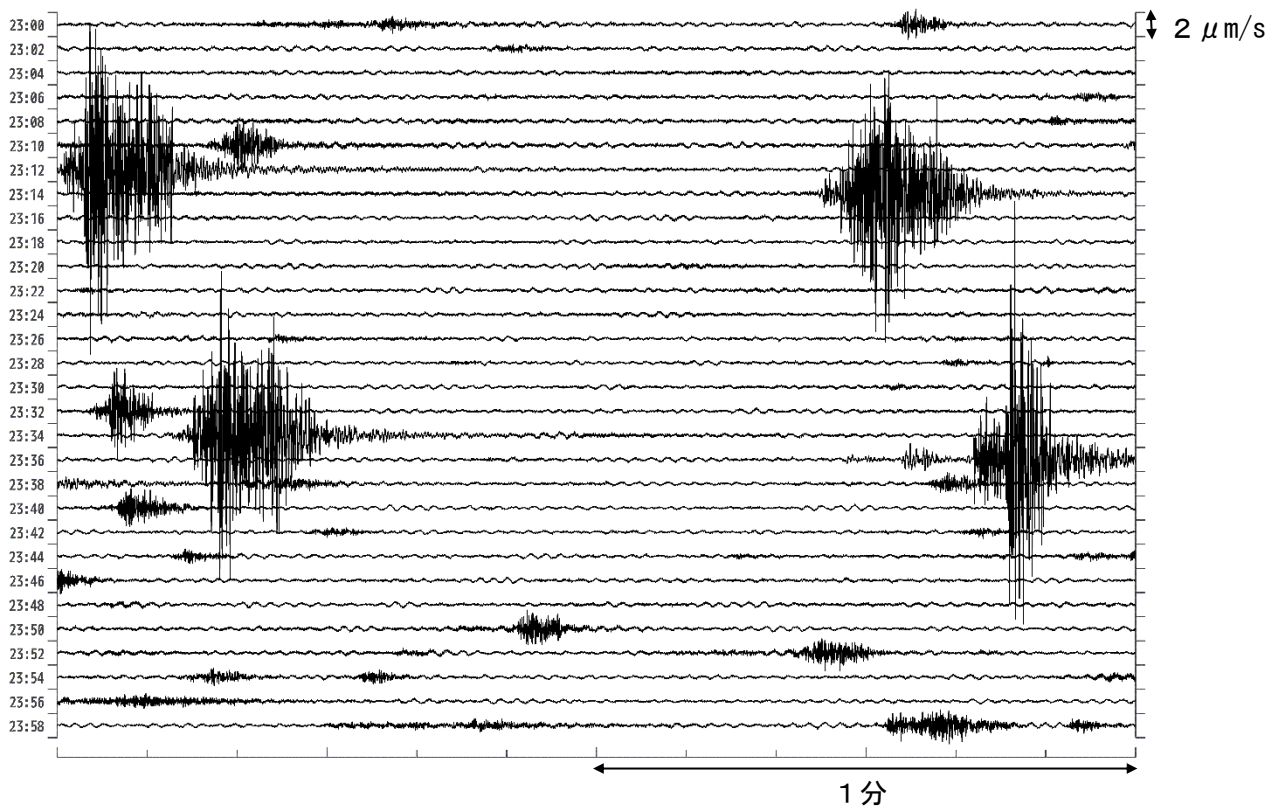


図2 吾妻山 吾妻小富士東観測点（上下成分）での火山性地震の発生状況
(2023年3月12日23時00分～24時00分)

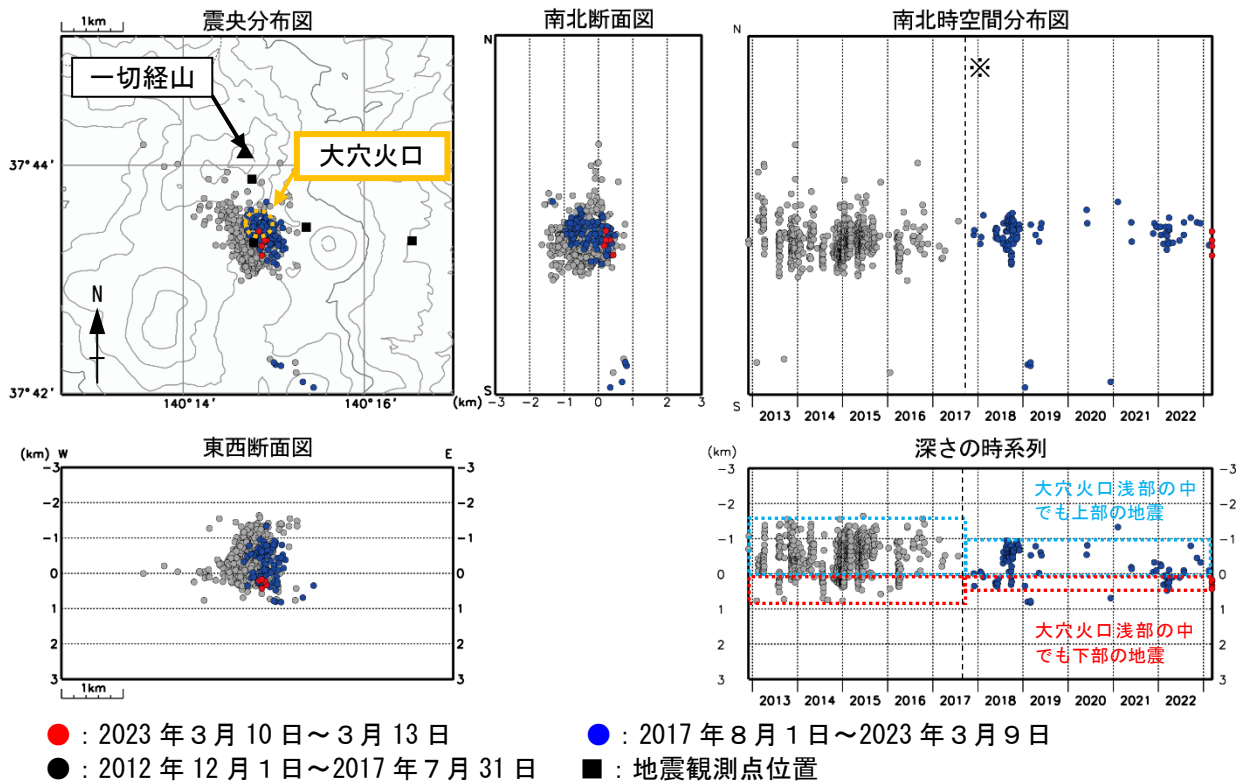


図3 吾妻山 地震活動 (2012年12月～2023年3月13日)

※2017年8月1日から蓬萊山東観測点を震源計算に使用しているため震源のばらつきがそれ以前より小さくなっています。

3月10日以降、火山性地震は震源が求まっていないものも含め、ほとんどが大穴火口浅部の下部で発生していると推定されます。

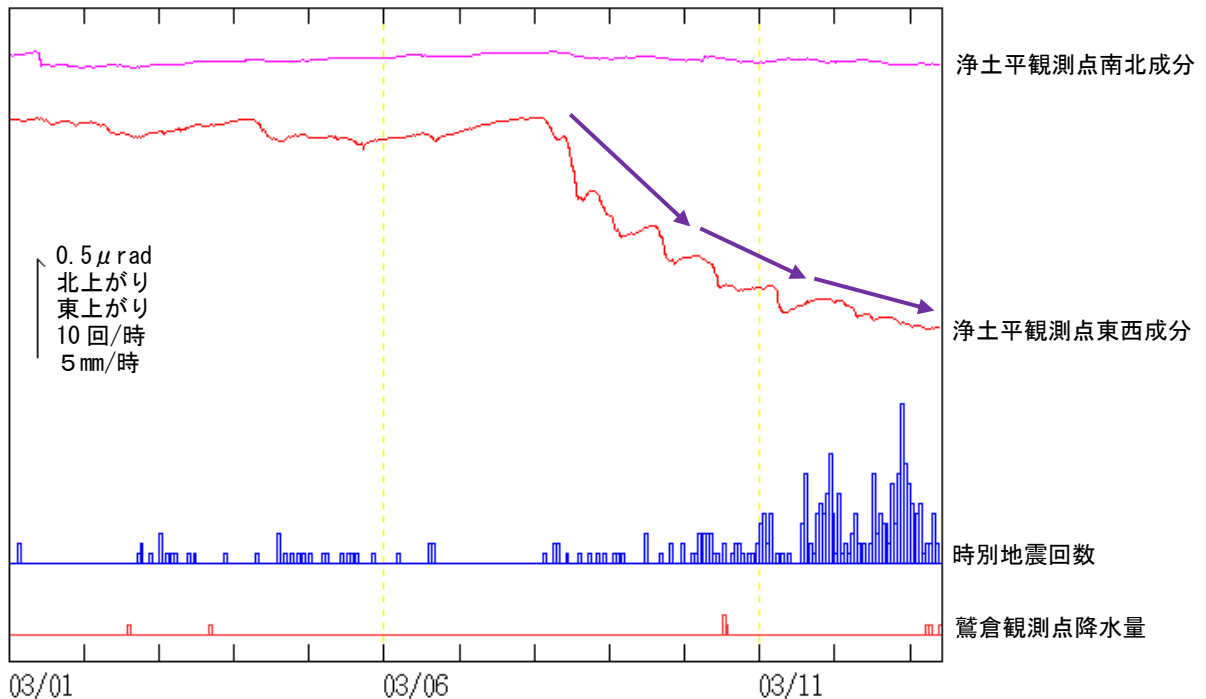


図4 吾妻山 浄土平観測点における傾斜変動

(2023年3月1日～3月13日10時、分値、長期トレンド・潮汐補正済み)

・1 μ rad (マイクロラジアン) は、1 km 先が1 mm 上下するような変化量です。

浄土平傾斜計では3月8日頃から西(大穴火口方向)上がりの変化(紫矢印)がやや大きくなっています。

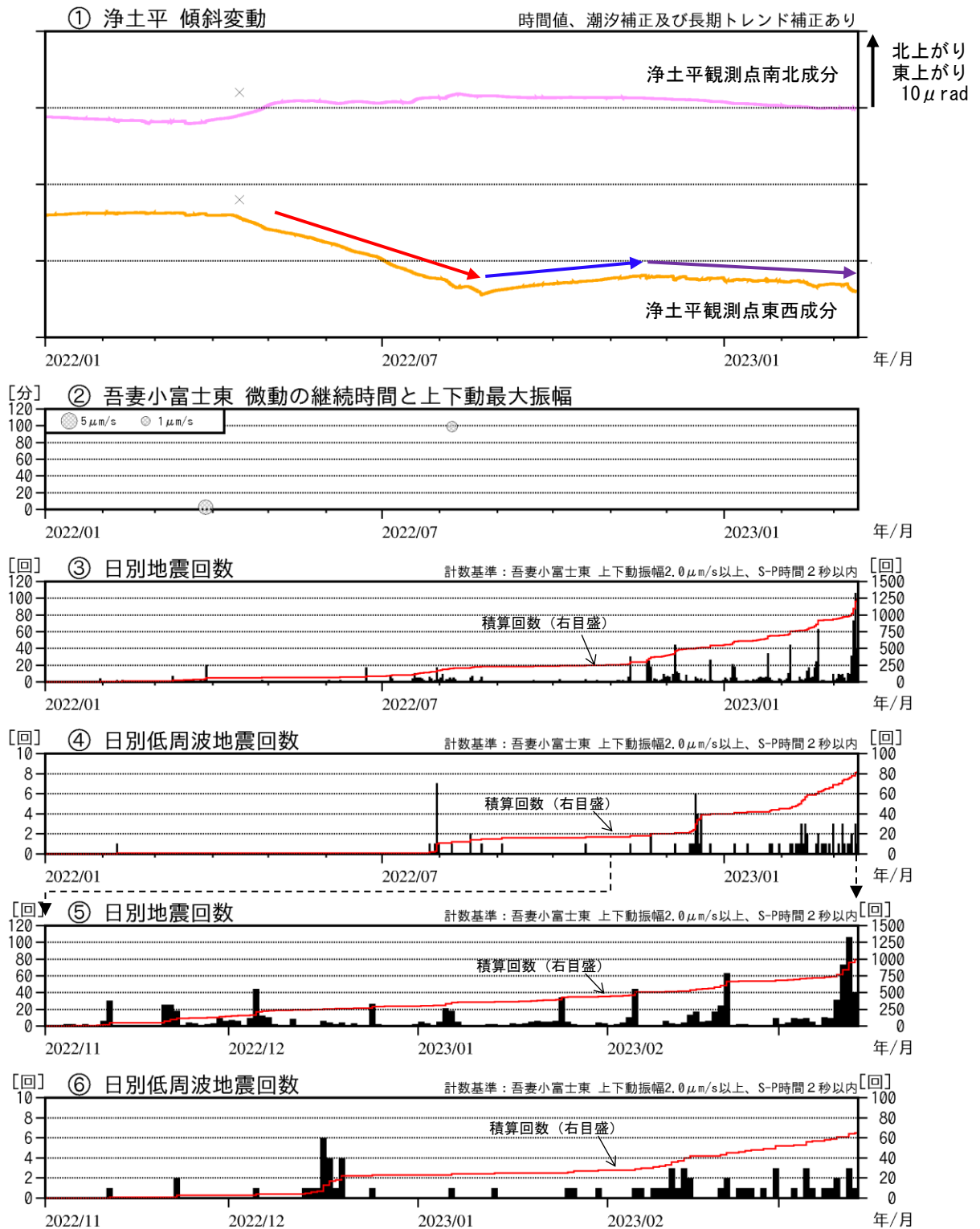


図5 吾妻山 火山活動経過図 (2022年1月～2023年3月13日10時)

・①×：融雪期には北西上がりの変動がみられます。

火山性地震は2022年11月頃からやや多く、2023年2月以降は多い状態で経過しています。また、低周波地震の発生頻度が2月頃からやや上がっています。火山性微動は2022年8月7日以降観測されていません。

浄土平観測点（大穴火口から東南東約1km）に設置している傾斜計では、2022年5月上旬頃から概ね西（大穴火口方向）上がりの緩やかな変化（赤矢印）が認められ、2022年8月23日頃から緩やかな西下がりに変化（青矢印）しました。2022年11月頃からは地震活動に対応して短期的な傾斜変動がみられますが、全体の変動としてはわずかな西上がり（紫矢印）となっています。

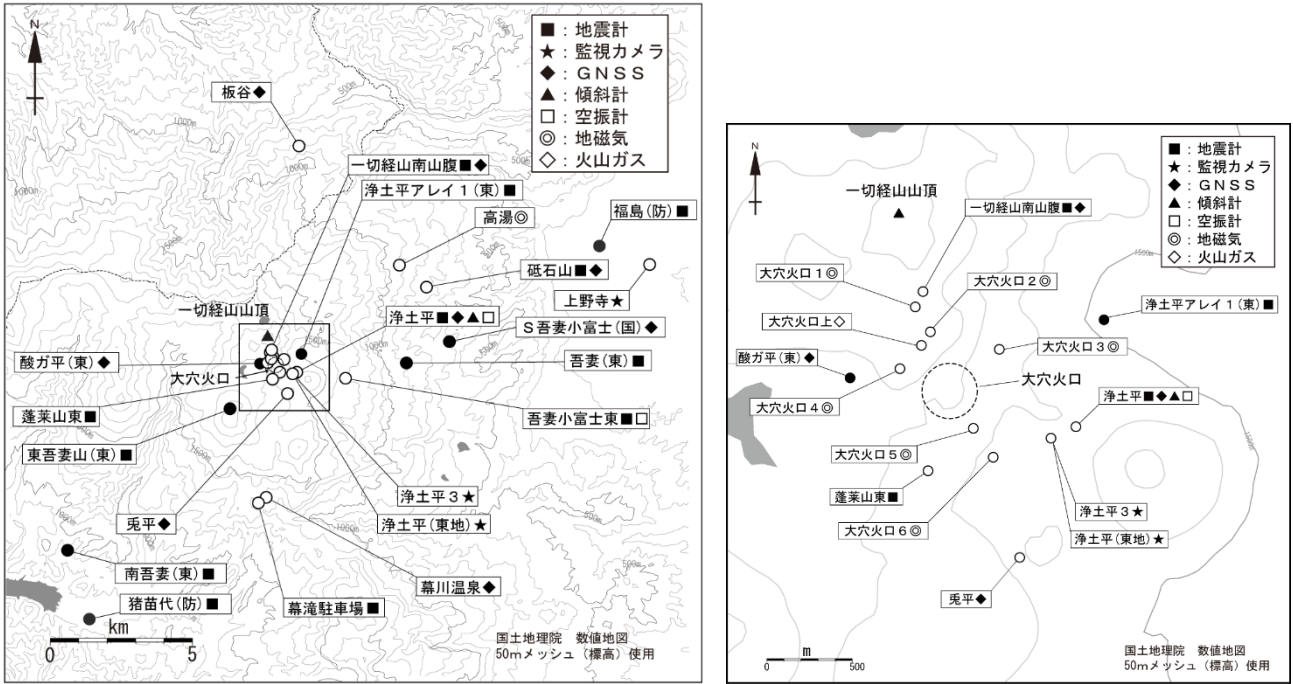


図6 吾妻山 観測点配置図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東地)：東北地方整備局 (国)：国土地理院 (東)：東北大学 (防)：防災科学技術研究所
左図の四角囲みは右図の表示範囲を示しています。